



いざ、ダイナミックな
恐竜の世界へ。



ティラノサウルス科の歯の化石標本。ティラノサウルス類の化石は北海道や福井県などで発見されているが、全長10mを超える大型種の化石は長崎で初めて見つかったという。また新たな例目となるティラノサウルス科の歯の化石も発見されて常設展示室で展示されている。



学芸員の武重さん。野母崎で発見された恐竜の中では「ハドロサウルス」が好きだいう。

「学芸員になってまだ一年目という夢を昨年、叶えたという。恐竜に関わる仕事がしたい」という夢を昨年、叶えたという。

「本当にこんな生き物が生きていたのかと想像するだけで楽しいですよ」と目を細めた。突然スクリーンが上がり、目の前に海が広がった。「こうした風景と恐竜の世界を一緒に楽しめるのは他の博物館にはない、長崎ならではの魅力です」と武重さん。まるで青い海の上を歩いているかのようなトリックの姿は幻想的で、ドラマチック。世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である端島（軍艦島）も遠くに見える美しい風景に、思わず立ち尽くしてしまう。

武重さんは学生時代、発掘された化石の恐竜を特定する研究を行っていたそうで、「いつか恐竜に関わる仕事がしたい」という夢を昨年、叶えたという。「学芸員になってまだ一年目という夢を昨年、叶えたという。」

恐竜の町として知られる長崎市野母崎エリア。この地に二〇二一年十月、日本で三番目となる恐竜専門の博物館がオープンした。長崎半島の沿岸部にある三ツ瀬層からは、国内で初めてティラノサウルス科の大型種の化石が発見されているほか、白亜紀後期の貴重な標本が数多く産出されている。長崎で見つかった化石は今から約八〇〇万年前のもの。恐竜の化石は全国で見られているが、この時代のもものは少なく、学術的にも貴重だという。また、「恐竜（龍）」という和訳語を考えた東京帝国大学教授の横山又次郎は長崎のオランダ通詞の家の生まれで、長崎と恐竜は実はゆかりが深い。常設展示室は五つのテーマで構成されているが、見どころは骨格標本がずらりと展示されている「恐竜の時代」のコーナー。中でも目を惹くのは、オランダからやってきた世界最大級のティラノサウルスの全身骨格のレプリカ「トリックス」。その大きさと迫力に圧倒されてしまう。学芸員の武重胡桃さんは

世界遺産を望む

恐竜 × 野母崎温泉

大人から子どもまで、幅広い世代が楽しめる「長崎市恐竜博物館」。

